

昭和54年度

教育センターにおける主な研究・研修事業とその内容

〔主な研究事業とその内容〕

研究と研修の一体化という視点から、昨年度来、教育センターにおいては組織機構の大幅な改編を進めてきた。そのことと合わせて、特に研修事業推進の基盤とも考えられる研究事業の、よりいっそうの充実強化を図ってきた。

ところで、この研究事業推進にあたっては、本県が当面する教育上の課題や、学校における教育実践上の問題等を対象に、かつ全国的研究の動向なども十分ふまえながら、その解決のための基礎研究を行って、学校経営や学習指導等の改善に積極的に寄与できるような研究にしようと取り組んでいる。

1. 主な研究主題

本年度、プロジェクト・チームを編成して取り組んでいる研究主題は下記のとおりである。

- (1) 学校経営の改善に関する研究
- (2) 授業研究と評価に関する研究
- (3) 福島県標準学力診断検査問題に関する研究
- (4) 教育相談に関する研究

これら4つの研究の内容をそれぞれ紹介する紙数がないので、今号では「授業研究と評価に関する研究」について次にあげてみる。

2. 授業研究と評価に関する研究

(1) 研究の趣旨

校内における授業研究は、一般に次の三段階をふんで行われている。

- ① 事前研究……授業研究の研究主題を決定し、これの解決策を位置づけた指導案の作成までの段階
- ② 授業観察……研究授業の実施・観察・記録の段階
- ③ 事後研究……観察・記録をもとにして、研究主題がどのように解決されたかなど、指導案の改善点の指摘と、指導案の修正案等の検討の段階

このような段階をふむ授業研究実施上の問題点に

ついて、昨年9～10月にわたって、県内全小中学校対象の調査をした結果、最大の問題点として

① 研究の時間が十分とれないこと。

調査回答によると、本県小中学校における1回の授業研究の各段階にあてられる研究時間は、およそ

- ・事前研究の段階……2時間
- ・授業観察の段階……1時間
- ・事後研究の段階……2時間

事後研究は、ほとんどの学校が研究授業実施当日に行っている。これは校内組織による授業研究の、1回当りの平均的な時間配分と考えることができる。即ちこの「2-1-2方式」を前提とした研究をする必要があるということである。

② 研究授業の指導案の作成が難しいこと。

③ 授業のねらいが、どれだけ達成されたかの判定が難しいこと。

などの3点が数多くあげられていた。

(2) 今後の研究

県内小中学校の実態に即した研究を推進するためには、さきに述べた前提条件ともいえるべき、2-1-2の時間方式の授業研究において、これらの問題点をどのように克服していったらよいかということである。

そこで、一応、次のような研究仮説のもとで本年度の研究をまとめていこうと考えているところである。

2-1-2方式の授業研究において、本時の指導目標と研究主題との関連を明確にし、研究主題の意図、解決策を明確に位置づけた指導案を作成すれば、授業観察の場面、視点、方法が明らかになり、事後研究の話し合いが焦点化され、まとめが効果的になされるであろう。

学校の授業研究推進に役立つ「2-1-2方式」